

Fe		50000			
Fe		担当部署			
Fe		生化			
検査オーダー					
患者同意に関する要求事項		特記事項なし			
オーダー手順	1	電子カルテ→指示①→検査→*1.頻用→			
	2	電子カルテ→指示①→検査→*2.分野別→生化学→			
	3				
	4				
	5				
検査に影響する臨床情報		特記事項なし			
検査受付時間		8 : 15 ~ 16 : 00			
検体採取・搬送・保存					
患者の事前準備事項		溶血による影響を受ける為、採血時に注意が必要。 日内変動があるため採取時間を定めて行うほうがよい。特に早朝空腹時が望ましい。			
検体採取の特別なタイミング		特記事項なし			
検体の種類	採取管名	内容物	採取量	単位	
1 全血	10 青	分離剤	8	mL	
2 -	-	-	-	-	
3 -	-	-	-	-	
4 -	-	-	-	-	
5 -	-	-	-	-	
6 -	-	-	-	-	
7 -	-	-	-	-	
8 -	-	-	-	-	
検体搬送条件		室温			
検体受入不可基準		1)採取容器違いの検体 2)バーコードラベルの貼られていない検体 3)固形物 4)粘性のある検体			
保管検体の保存期間		冷蔵・2週間(追加検査については、検査室に要問合せ)			
検査結果・報告					

検査室の所在地		病院棟 3 階 中央検査部				
測定時間		当日中～翌日				
生物学的基準範囲		40-188 $\mu\text{g}/\text{dL}$ 日本臨床検査標準化協議会 共用基準範囲				
臨床判断値		設定なし				
基準値					単位	$\mu\text{g}/\text{dL}$
共通低値	共通高値	男性低値	男性高値	女性低値	女性高値	
40	188	設定なし	設定なし	設定なし	設定なし	
パニック値	高値	設定なし				
	低値	設定なし				
生理的変動要因		<p>日内変動：朝高く(午前 7-10 時が最高、夜間低い。正常者では朝の最高値が夕方の最低値の 2 倍以上に及ぶことも少なくない。</p> <p>年齢による変動：成長期には赤血球量および体組織量の増大があり、運動量の増加や偏食、食物量の不均衡など種々の要因が重なるため、成人より鉄欠乏に陥りやすい。また、高齢者の血清鉄値はやや低い。</p> <p>性差：受胎可能な健康女性の血清鉄の平均値は、男性に比べて 15-20$\mu\text{g}/\text{dL}$ 程度低い。女性は月経のため月に 20-30$\mu\text{g}/\text{dL}$ の鉄を失うため、女性の鉄貯蔵量は同年代の男性よりはるかに少ない。</p> <p>妊娠による変動：妊娠時には、胎児の発育に必要な鉄分を供給するばかりでなく、母体の赤血球量の増加や出産時の出血などにより、鉄欠乏をきたしやすい。</p>				
臨床的意義		<p>血清鉄は、造血機能を反映するため、主に血液疾患で測定される。鉄欠乏や鉄過剰に起因する疾患の鑑別や、治療効果の判定のために測定される。また、血液疾患以外(肝疾患)でも測定される。</p> <p>日本臨床第 7 版 301,2009</p>				